

saveMLAK ニュースレター 第72号

saveMLAK が 第15回野上紘子記念 JADS 推進賞を受賞

第15回野上紘子記念アート・ドキュメンテーション推進賞を saveMLAK が受賞しました。本賞は、アート・ドキュメンテーション学会 (JADS) が主催するものであり、アート・ドキュメンテーション関係業務の現場において、効果的かつオリジナリティを発揮した者、あるいは機関を対象として授与されます。saveMLAK は、「東日本大震災以降現在まで10年間にわたり、災害時における博物館・美術館 (M)、図書館 (L)、文書館 (A)、公民館 (K) の活動の記録、発信を継続してきた実績に対して」が評価され、推進賞受賞の運びとなりました。詳しい受賞理由については、JADS ウェブサイトに掲載されていますので、ぜひご覧ください。

<http://www.jads.org/award/NOGAMI2021.pdf>

推進賞受賞については、2021年6月のJADS第32回(2021年度)年次大会にて発表されていましたが、授賞式は延期となっており、この度、10月23日のJADS第14回秋季研究集会にて同賞の授賞式が開催されました。

授賞式では、あらためて同賞の設立経緯と概要、saveMLAK への受賞理由が選考委員より述べられました。そして、saveMLAK からは江草さんが代表して、受賞への喜びとコメントを参加者の皆さんに向けてお話くださいました。このコメントについ

ては、JADS の会報である『通信』に掲載される予定とのことですので、当日参加できなかった方は内容が気になると思いますが、『通信』の発行までしばらくお待ちください。

受賞者に贈られたトロフィー上部には、「M」「L」「A」の文字が刻印されています。もちろん、これは Museum, Library, Archives の頭文字であり、MLA 連携を表現しているものです。Kominkan がないのは少し残念ではありますが、まさに私たちの活動を示しているものであろうかと思えます。このトロフィーと賞状は、大阪のエル・ライブラリーにございますので、実物をご覧になりたい方は、ぜひエル・ライブラリーに足をお運びください。

saveMLAK の活動が始まり、10年が経過しましたが、私たちの活動やそれを通じて築かれてきた繋がりは、COVID-19 にかかる調査でも機能してきました。今後もどのような活動をしていくのか、関わるみんなで常に話し合いながら歩んでいきたいと再認識できた授賞式でした。(あこたかゆき)



オンラインの授賞式に代表参加した江草由佳さん

図書館総合展 2021

saveMLAK フォーラム開催報告

2021年の図書館総合展も昨年に引き続き、オンラインを中心とした開催になりました。saveMLAKでも、鈴木光(すずき ひかり)さんをお招きし、震



災訓練プログラム「saveMLAK メソッド」をテーマにしたフォーラムを開催いたしました。当日の様子は、録画公開していますので、当日参加が叶わなかった方はぜひご覧ください。

開催日時：2021年11月4日（木）19:00～20:30

講師：鈴木光（一般社団法人減災ラボ 代表理事）

講演題目：「減災のいま ～震災訓練プログラム saveMLAK メソッドのこれまでとこれから」

・アーカイブ動画（YouTube）

https://youtu.be/99jfV52W5_s

・発表スライド

<https://savemlak.jp/savemlak/images/3/39/図書館総合20211104-suzuki.pdf>

鈴木さんには、「saveMLAK メソッド」のアドバイザーを務めていただいております。これまでのメソッド実施やファシリテーター養成にもご協力いただきありがとうございました。今回は、saveMLAK メソッドをどのように実施してきたのかや、防災・減災への意識をどのように培っていくのかなどについて、お話をうかがうことができました。

「saveMLAK メソッド」は、机上での訓練ではなく、架空の図書館を想定するものの、実際の図書館を舞台（実施会場）にして、地震などの自然災害が発生してからの対応をシミュレーションしていく訓練です。訓練参加者はロールプレイング方式で役割を決めて、リアルタイムで状況が変化するシナリオに対してどのような判断や行動をとっていくのかを考えていきます。準備されたシナリオですが、被害状況の変化を記した「アクションカード」というものが準備され、どのアクションカードを訓練参加者が選択したかによって、状況が変化します。もちろん、その内容を事前に知ることはできません。次々に起きるアクションに対して、その場その場で対応を協議し行動していくことで、自分自身のできごと

として捉えられていきます。講演内では、実際の実施動画（2013年エル・ライブラリーにて実施）を再生し参加者と一緒に観つつ、具体的な場面における意図や行動内容を紹介いただきました。なお、この実施動画は、次の URL からご覧いただけます。

・ saveMLAK メソッド 10min

<https://www.youtube.com/watch?v=gqbFjT6UNjC>

震災と一口に言っても、被災した図書館の被害の状況はそれぞれに異なり、震災後の対応も様々です。saveMLAK メソッドの解説とあわせて、被災した各地の図書館の状況を実際の状況写真とともにお話くださいました。特に印象的であったのは、写真では伝わらない避難所として設定された施設での臭いの問題です。トイレに関わる臭気はもちろん、避難生活が長期にわたると生活臭が強くなってきます。それらへの対応を記した掲示チラシなどを図書館が収集して保存しているということは大事なところだと思います。簡単に写真を撮れる現代だからこそ、見落とししてしまう点かもしれません。

そして、後半では、机上でのシミュレーション訓練「my 図書館 DIG」をご紹介くださいました。こちらは、図上での訓練ですが想像力を働かせてイメージを醸成し、想定されるリスクを認知・可視化して共有していくというものです。自身が所属する図書館の平面図上で、具体的な時間や来館者数、人の分布状況なども想定していき、リスクを想像していきます。施設・設備で対応できない部分をどのようにして人でカバーしていくのかを参加者で考えて備えるという気づきを得られました。さらに、同様の机上訓練として、「my 減災マップ」の取り組みもご紹介いただきました。こちらは、新型コロナウイルス感染症が猛威をふるう中、現地に集まらずともオンラインで開催できるので、実施を続けてこれたものです。「重ねるハザードマップ



(<https://disaportal.gsi.go.jp/>)」を用いて、その地域に住んでいる方はもちろん、他地域の方もオンラインで参加できたことによって、各地域の特徴や経験を共有することができ、これまで気づけなかった視点も生まれてきたということです。他地域の課題を自身の地域に照らし合わせて考え見るなど、オンラインならではの成果が生まれているとのことでした。

鈴木光さんの講演は以上のようなものでしたが、講演に引き続いて質疑応答でも多くの質問や今後の展開についての話が盛り上がりました。その中でも私が印象的に感じた話題は次の2つです。

ひとつ目は、防災・減災を自分ごとにしていく過程での考え方です。講演の中で、何度も”自分ごとにする”という言葉がでてきました。これは、正直わかってはいるけれど、実際にはなかなか難しいことだと思います。しかし、取り組んでいくときに、「自身の身近な誰かを守る」「誰と一緒に守っていきたいか」と考えながらだと、自分ごとにしやすいのではないかというお話がありました。この言葉が心に響いた参加者は多かったと思いますし、私もその一人です。多様な防災・減災を考えていく機会や方法がありますが、それらに参加した際には、この言葉・姿勢を思い出して取り組んでみたいです。

そして、もう一つが、みんなで saveMLAK メソッドで用いる「アクションカード」を作っているという今後の展開についてです。アクションカードは saveMLAK メソッドのシナリオがどのように進んでいくかを定める分岐点です。例えば、「全巻停電した」とか「館長が負傷し指揮・判断をくださることができない」などなどです。私は、「アクションカードの内容を考えること自身が、防災を考えることになる」と思い、コメントさせていただきました。鈴木さんから、アクションカードを当事者や参加者自身で考えることが、シミュレーション訓練を自分

ごととして捉え参加することにつながるとお話いただきました。さらに、アクションカードを考えるだけのワークショップも十分に意味があり、図書館だけではなく、博物館や複合施設などを対象にしてみる。さらに立地や来館者種別によって、想定されるアクションは多種多様なもので、それを共有することをやってみようという話が膨らみました。近く実施予定ですので、ご関心を持たれた方は、saveMLAK のウェブサイトやニュースレターで開催の案内をチェックしてください。

私は講演当日は移動中であつたため、電車内からの参加でしたが、あつという間に過ぎた時間でした。改めて防災・減災について考えることができましたし、継続的に考えていくことの大事さを痛感できたフォーラムでした。そして、saveMLAK メソッドの実施だけにはとどまらず、さらにアクションカードを考えていくワークショップを開催し充実させていこうという今後の展開もみえた実りあるものでした。

鈴木光さん、ご講演ありがとうございました。

そして、これからもよろしく願います。

(あこたかゆき)

2021年10月～2022年1月の出来事と今後の予定

- 9月25日(土) - 9月27日(月)

第5回 COVID-19の影響による専門図書館の動向調査実施

<https://savemlak.jp/wiki/saveMLAK:%E3%83%97%E3%83%AC%E3%82%B9/20211001-dlib>

- 10月22日(金) - 10月25日(月)

第24回 COVID-19の影響による図書館の動向調査実施

<https://savemlak.jp/wiki/saveMLAK:%E3%83%97%E3%83%AC%E3%82%B9/20211026>

- 10月26日(火) 第127回 Meetup を開催



<https://savemlak.jp/wiki/saveMLAK:Event/20211026>

- 11月4日(木) 第23回図書館総合展2021
フォーラム開催

<https://savemlak.jp/wiki/saveMLAK:Event/LibraryFair2021>

- 11月29日(月) 第128回 Meetup を開催
<https://savemlak.jp/wiki/saveMLAK:Event/20211129>

- 12月10日(金)-12月14日(火) 第25回
COVID-19の影響による図書館の動向調査実
施

<https://savemlak.jp/wiki/saveMLAK:%E3%83%97%E3%83%AC%E3%82%B9/20211217>

- 2022年1月15日(土) 第129回 Meetup を
開催予定

<https://savemlak.jp/wiki/saveMLAK:Event/20220115>

- 2022年2月14日(月) 第130回 Meetup を
開催予定

編集後記

11月にできれば発行を……と思いつつ、ばたばたして、年を越しての発行になってしまいました。ごめんなさい。今年はどんどん手早くやっていこう!というのと、やりすぎ禁止!を新年に誓いました。

また、saveMLAK で取り組んでいる COVID-19 の調査も 25 回を越えました。次回調査は未定ですが、もうしばらく状況を見ていく必要がありそうです。この 2 年のうちに、全国の図書館で電子書籍貸出サービスの導入が進んだり、オンラインでの活動も増えてきたりと、図書館にもいろいろな変化がありました。しかし、感染症のことを考えずにほっとできる日がなつかしいと思うこともしばしばです。1 日も早い COVID-19 の流行収束を祈るばかりです。

【子安伸枝：編集担当】

編集発行：saveMLAK プロジェクト
発行日：2022年1月11日(火)(第72号)
発行所：神奈川県横浜市中区相生町3-61 泰生ビル
さくら WORKS<関内>407
アカデミック・リソース・ガイド株式会社内
saveMLAK プロジェクト
E-mail：pr@savemlak.jp
URL：<https://savemlak.jp/>

